

乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(小児科定点、インフルエンザ定点)

第 6 週 平成28年2月8日 ~ 平成28年2月14日

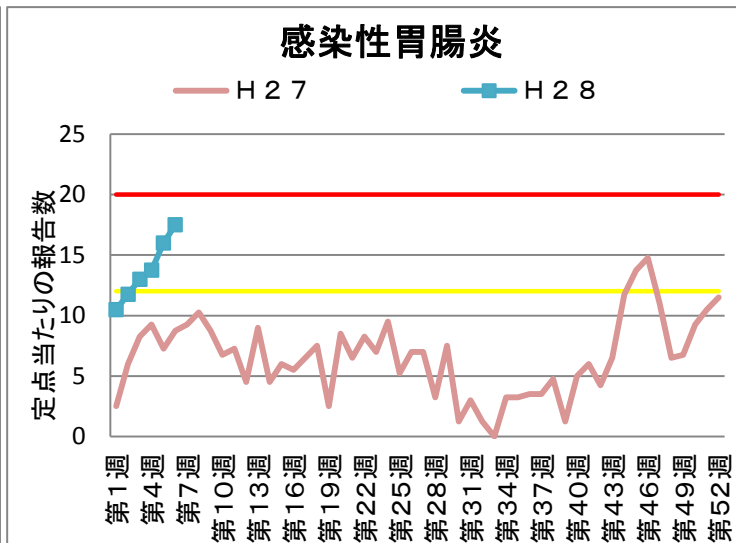
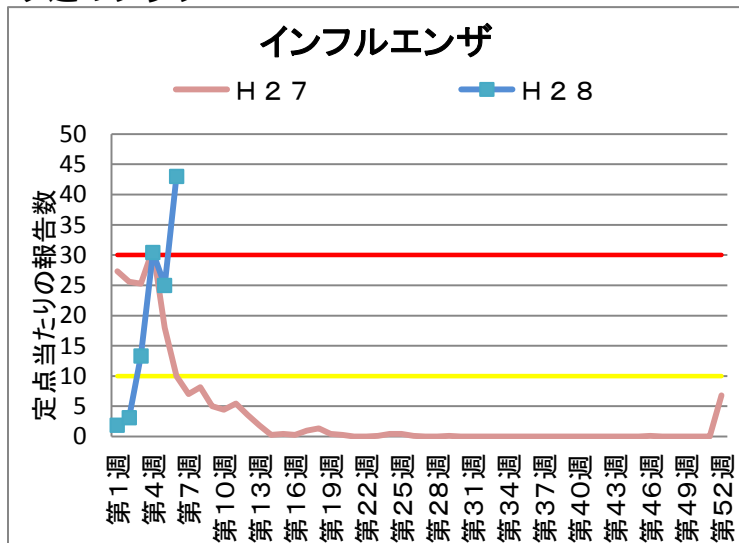
今週のコメント

○ 第6週(2月8日~14日)の1定点医療機関当たりのインフルエンザに罹患された方の報告数は、再上昇し43となりました(先シーズンおよび先々シーズンのピーク値と同程度の値です)。これまでのシーズンにおいても、ピークアウトしても、警報継続基準値(10)をきるのには1か月はかかることが予想されるので、感染対策をしっかりと今シーズンをのりきりましょう。

○ 全国のインフルエンザウイルスの分離では、A(H1)pdm09が最も多く、次いでB型でビクトリア系統と山形系統が同程度となっています。乙訓地域でもA(H1)pdm09とB(ビクトリア系統)が分離されています。

○ 感染性胃腸炎もじわじわと増加し警報レベルに近づいています。帰宅時や食事前は、しっかりと手洗いをしましょう。

今週のグラフ



* 赤線 流行警報基準値です 黄線 警報継続基準値です

今週の報告状況

疾病名	定点当たりの報告数	疾病名	定点当たりの報告数
インフルエンザ	43	手足口病	-
RSウイルス感染症	-	伝染性紅斑	0.25
咽頭結膜熱	0.75	突発性発しん	0.5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	百日咳	-
感染性胃腸炎	17.5	ヘルパンギーナ	-
水痘	-	流行性耳下腺炎	-

定点当たりの報告数 = 1週間の報告件数総数 / 定点数

* 乙訓管内 インフルエンザ定点数：7箇所、小児科定点数（インフルエンザ以外の疾病）：4箇所

参考資料等

報告週対応表

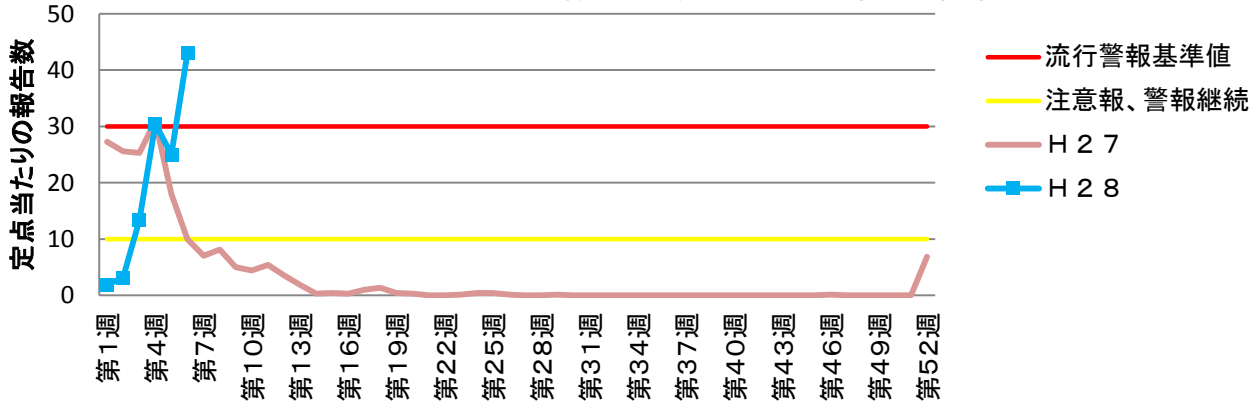
警報・注意報基準値の説明

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

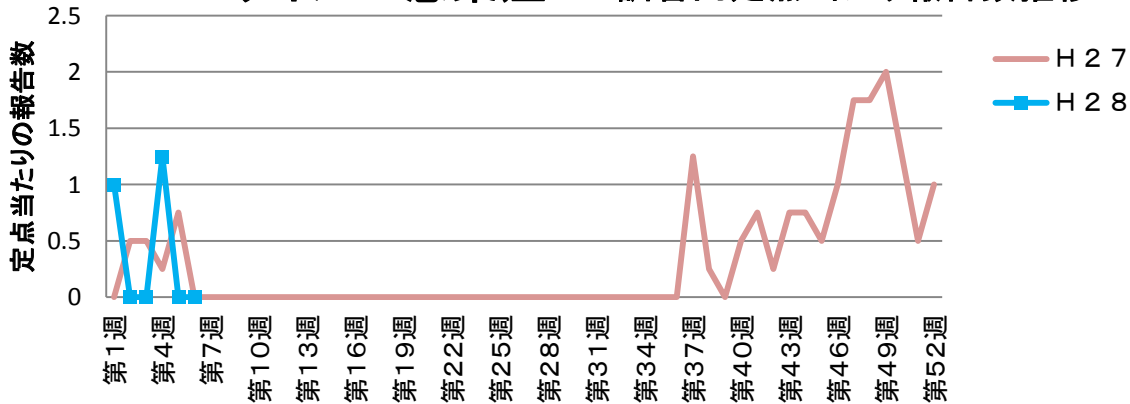
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide05.html>

定点報告による各疾病の推移

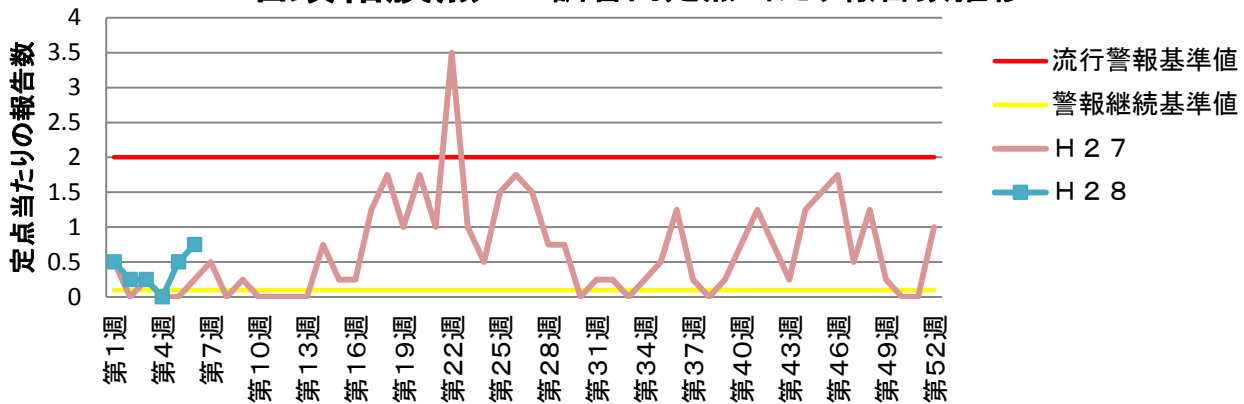
インフルエンザ 乙訓管内定点当たり報告数推移



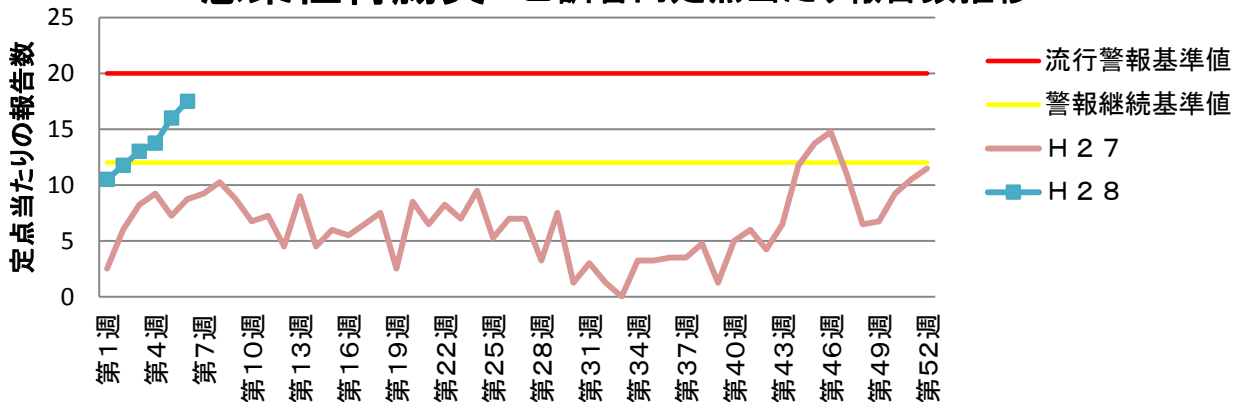
RSウイルス感染症 乙訓管内定点当たり報告数推移



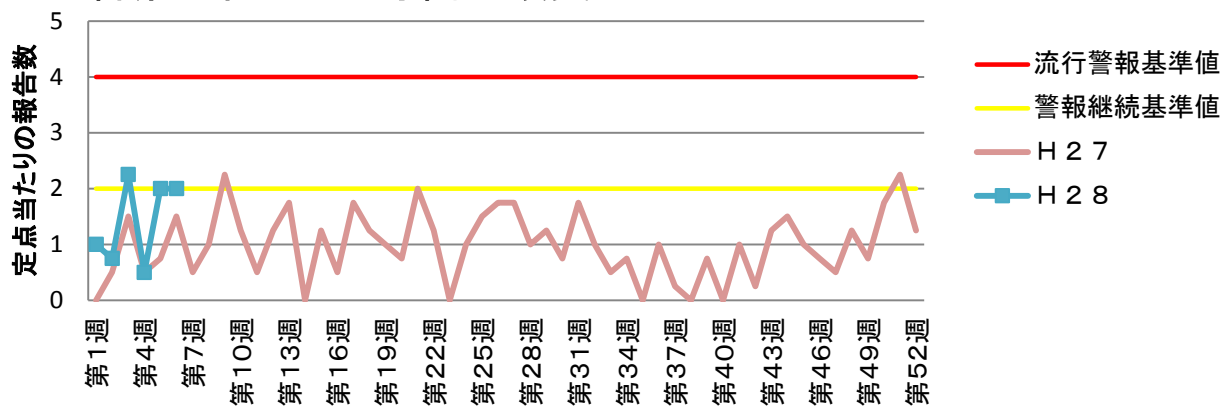
咽頭結膜熱 乙訓管内定点当たり報告数推移



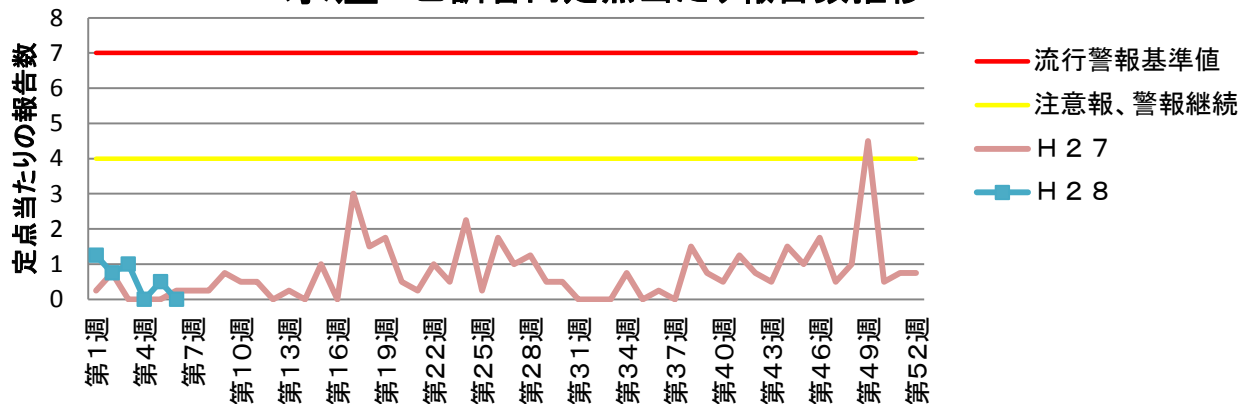
感染性胃腸炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



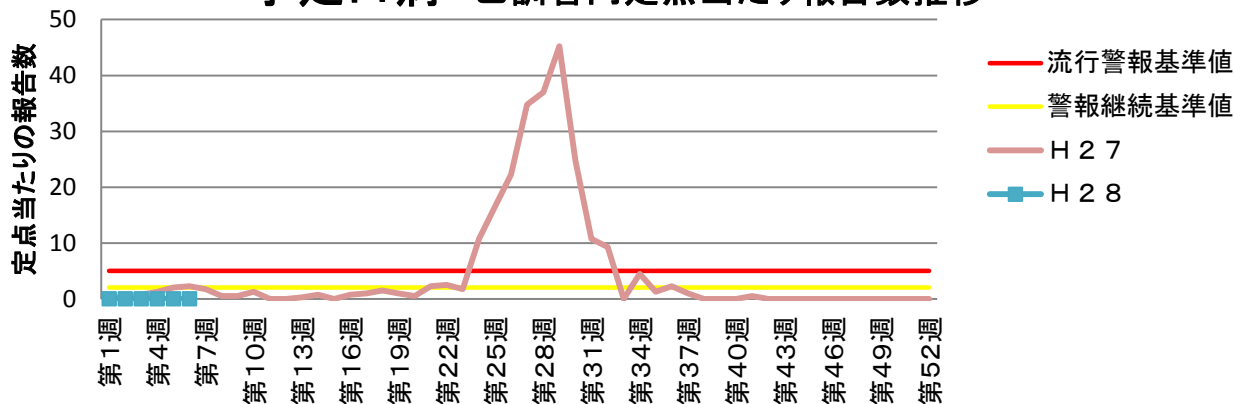
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



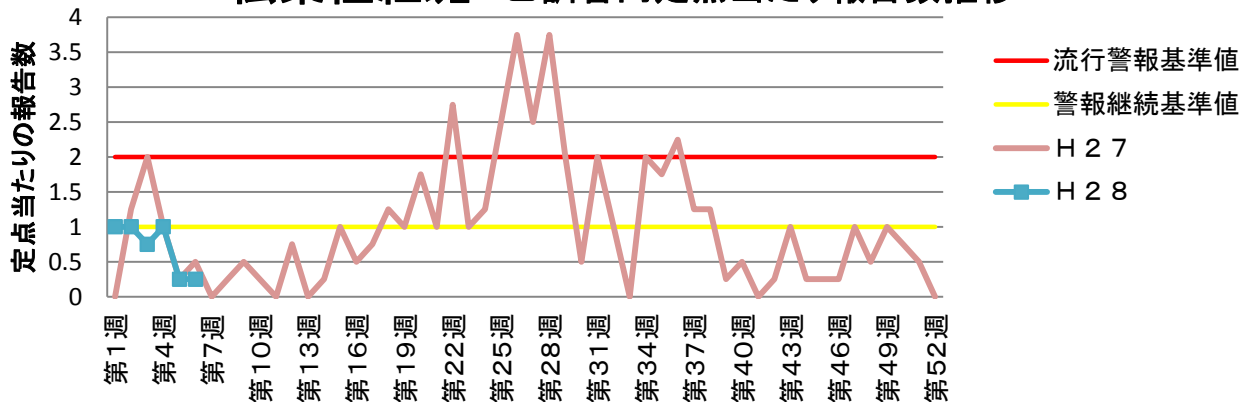
水痘 乙訓管内定点当たり報告数推移



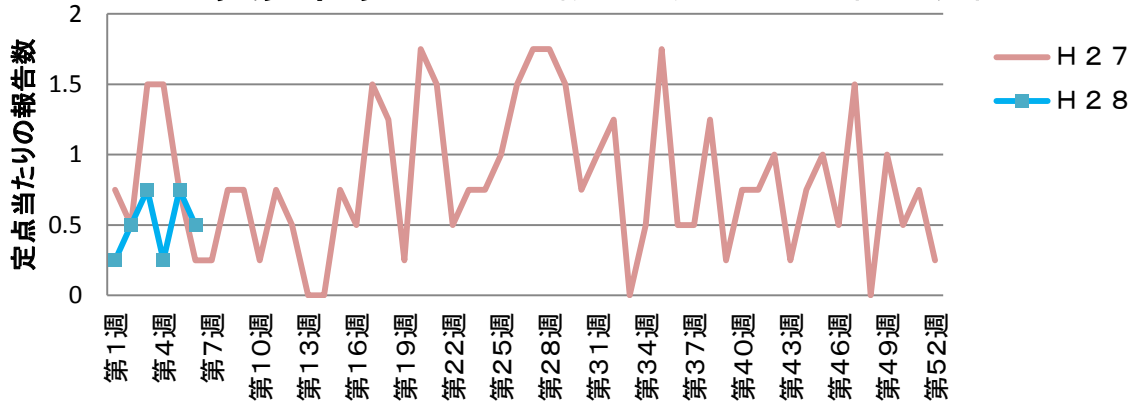
手足口病 乙訓管内定点当たり報告数推移



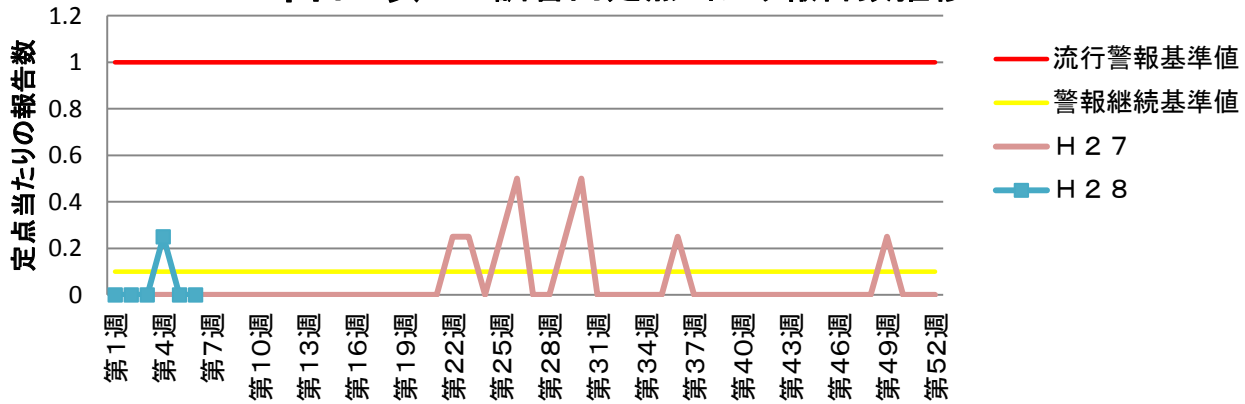
伝染性紅斑 乙訓管内定点当たり報告数推移



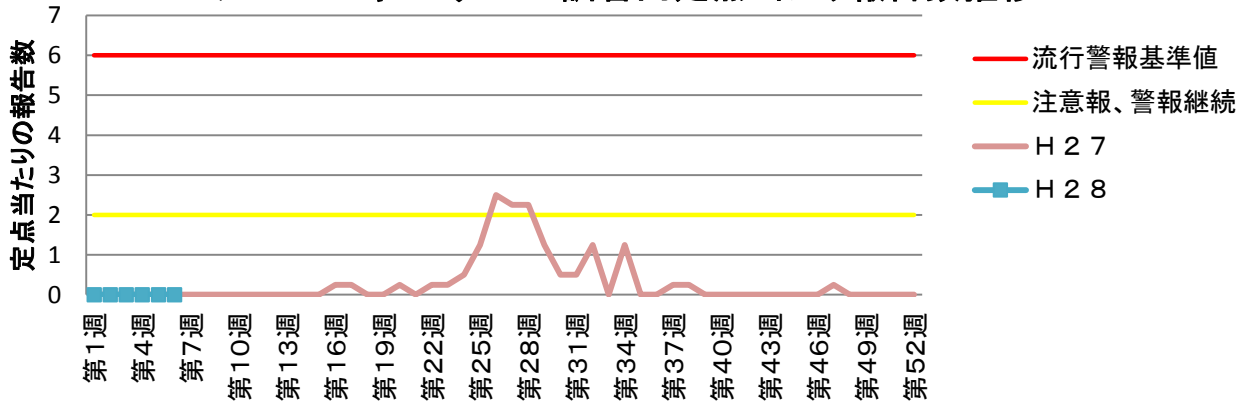
突発性発しん 乙訓管内定点当たり報告数推移



百日咳 乙訓管内定点当たり報告数推移



ヘルパンギーナ 乙訓管内定点当たり報告数推移



流行性耳下腺炎 乙訓管内定点当たり報告数推移

